

軍國全部協力シテ之ヲ開催進行セシメサルヘカラサルモノト認ム

九六

第五節 比率問題ニ關スル松平「ドーズ」兩大使間一般的會談

七月四日松平大使「ドーズ」大使ノ希望ニ依リ會見シタル處「ドーズ」大使ハ國務長官ヨリ來翰ニ接シタリトテ六月二十四日附書翰寫ヲ内示シタルカ右ニ依レハ六月十一日「スチムスン」長官出淵大使會談（第二章第一節第二項末段參照）ノ要領ヲ記載シ終リニ出淵大使ハ日本ハ支那ノ事情ニ顧ミ同地方ニ小型ノ軍艦ヲ要スルニ付五—五—三ノ比率ヲ巡洋艦以下ノ軍艦ニ適用スル事ニハ日本ハ満足セサルヘキ旨ヲ述ヘタルニ付長官ハ先ツ大體口徑、速力、艦齡等ヲ考慮シテ各國軍艦ノ價值ヲ比較シタル上本問題ヲ議スル事然ルヘシト述ヘ置キタリト記載シアリタリ「ドーズ」大使ハ特ニ此ノ點ニ付松平大使ノ注意ヲ喚起スル様子ナリシニ付松平大使ハ「支那地方ニ於テ僅ノ米國民ヲ保護スル爲ニ相當多數ノ軍艦ヲ米國政府ニ於テ派遣シタル事實ニモ顧ミ上海ノミニテモ二萬人ヲ有シ全數ニ於テ二十萬ノ居留民ヲ有スル日本トシテハ一旦動亂ノ生シタル場合多數ノ軍艦ヲ要スル事勿論ナルカ尙其ノ外五—五—三ニ反對ナル理由ハ他ニモアリ」トテ島國トシテノ日本ノ立場等一般的説明ヲ爲シ「尙何レノ場合ニ於テモ日本ハ國防ヲ本意トシ決シテ攻撃ノ基礎ニ於テ比率變更ノ根據ヲ求ムルモノニ非ス如何ナル比率ノ變更ヲ希望スルヤハ他日ノ問題トシ五—五—三ヲ主力艦以外ニ適用スル事ハ日本ノ輿論ニ顧ミルモ承諾シ得ラレサルヘキニ付此ノ點ハ豫メ御含ミヲ請フ」旨述ヘタル處「ドーズ」大使ハ國務長官ノ書翰ニ依リ「コムミット」スル事ヲ避クル様子ナリシカ「兎ニ角輿論ヲ無視スル事ハ何レノ國ニ於テモ困難ナルニ付是等ハ何レ慮心坦懷話合フニ於テハ調整 (adjust) スル事可能ナルヘシ」ト述ヘタリ

尙「ドーズ」大使ハ一ノ覺書様ノモノヲ内示シ「初メテ「ギブスン」ト共ニ首相ニ面會シタル時首相ノ述ヘタル事ニ對シ「ギブスン」ヨリ此ノ覺書ヲ作り來リタルニ付自分ハ次回首相ニ面會ノ際此ノ意味ヲ述フル積リナリ」ト云ヘルカ其ノ内容ハ英國側ニテハ千九百二十九年度計畫ハ放棄スル事ヲ得ルモ千九百二十八年度計畫ニ對シテハ既ニ契約ヲ締結シタルニ付

之カ廢棄ニ多大ノ賠償ヲ要スルノミナラス之ヲ放棄スルニ於テハ二千人ノ失業者ヲ出スヘキニ付之ヲ放棄スル事能ハサル事ヲ述ヘタルカ右ノ如クセハ縮少ニアラスシテ制限トナリ米國側ニ於テハ結局「バリテイ」ニ達スル迄造船艦ヲ爲ササルヘカラサルニ至ルトノ趣意記載シアリタリ

第六節 關係國代表者間非公式相談會議題案ニ對スル帝國政府訓令(附、軍縮全般ニ互ル專門的對策ニ關スル海軍訓令)

帝國政府ハ本章第三節ニ記載セル相談會開催ノ件及右相談會ニ於ケル米國側選定ノ議題案ニ對シ慎重ナル考慮ヲ加ヘルタ上七月十九日松平大使宛左ノ通訓令セリ

「一、倫敦ニ於テ海軍軍縮ノ一般方針ニ關シ五國代表者ノ相談會ヲ開クコトハ異存ナシ貴電（第二章第八節第一項（參照）ニ依レハ英米兩國先ツ話合ヲ付ケタル後他ノ關係國ニ協議セムトスル模様ナル處英米ノ話合ヲ阻碍スルカ如キ態度ニ出ツルコトヲ避クヘキハ勿論ノ儀ナルカ本問題ノ重大ナル性質ニ鑑ミ當初ヨリ極メテ率直好意的ナル「ドーズ」大使トハ特ニ緊密ナル關係ヲ持續シ又「マクドナルド」首相及英當局トモ充分聯絡ヲ計リ適當ノ機會ニ於テ我主張ヲ開陳貫徹スルノ素地ヲ作り置カル様可然御措置アリ度シ

二、米國政府選定ノ議題案四項目ヲ以テ相談會協議ノ範圍トスルコトニ付テハ異存ナシ議題案各項目ニ對スル我方ノ所見左ノ如シ

（第一項）

海軍力比較法ハ最モ簡明ナルコトヲ要スヘシ我方專門家ノ研究ニ依ルモ從來通り排水量ニ依ルヲ以テ簡明且最モ良ク綜合勢力ヲ表ハスモノト認メサルヲ得ス尤モ艦齡ニ對シ適當ナル勢力遞減率ヲ發見スルヲ得ハ之ヲ排水量ニ加味スルコトニ依リ一層合理的ニ勢力ヲ比較シ得ヘキヲ以テ該遞減率研究ヲ各國專門家ニ附託スルコト有益ナルヘシ艦齡以外ニ砲力

最終會議ニ於ケル討議ノ範圍ニ付テハ米國側ノ希望ニ全然同意ナリ但シ補助艦制限ト華府條約改訂トハ互ニ相累ハシメサル様充分ナル用意ヲ必要トスヘク萬一兩者同時ノ成立ヲ望ミ難キ場合ニハ先ツ補助艦制限ノ成立ニ努力スルヲ順序トスヘシ

華府條約ノ改訂ニ付テハ豫メ其ノ範圍ヲ明確ニ限定スルニアラサレハ遂ニ同條約ノ效力ヲ危クスル惧アリ仍テ改訂ノ範圍ハ大體左ノ如ク限定スルヲ必要ト認ム

- | | |
|-----|---------------|
| (1) | 主力艦代艦ノ艦型縮小 |
| (2) | 代艦建造期間ノ建長 |
| (3) | 主力艦及航空母艦ノ艦齡延長 |

各國ノ新計畫全部ヲ認ムルコトハ軍備擴張ノ實現ヲ認容スル結果トナリ軍縮ノ精神ニ背馳スト云ハサルヘカラス故ニ制限ニ止マラス縮少ヲ行フ覺悟ヲ以テ事ニ當ルヲ要スルコト勿論ナルモ主要海軍國勢力ノ區々タル現狀ニ照シ實際上比率ヲ協定スルニ當リテハ或ル國ニ對シテハ縮少トナルモ他ノ國ニ對シテハ制限ニ止マル場合ヲ見ルヘク兩者ヲ截然區別シ其ノ孰レカ一方ヲ各國一律ニ適用スルコトヲ得サルハ踏易キ所ニシテ要ハ一般のニ縮少ノ實ヲ舉クルヲ目標トシテ各國ノ保有量ヲ協定シ(各國新計畫及未着手計畫ノ拋棄竝ニ老齡艦ノ廢棄ヲ原則トス)例外的ニ小數國ノ不足量ニ對シ新計

畫ヲ認メ過剩量ニ對シ既成艦ノ廢棄若ハ建造ノ中止ヲ求ムルコトニ依リ比率ト量トヲ調節スヘキモノト考フ

佛伊兩國共壽府會議ニ於ケルカ如ク斷然參加ヲ拒絕スルカ如キ場合ニ於テハ日英米三國會議トナルモ已ムヲ得サル所ナリト雖斯カル事態ヲ見ルコトハ軍縮問題ノ解決ヲ不徹底ニ終ラシムル危險アリ仍テ相談會ニ於テモ充分協調ノ精神ヲ以テ佛伊ヲ待遇シ兩國ヲシテ安シテ最終會議ニ參加セシムル様努力スルコト肝要ナリ

英米間ニ協定ノ成立スルト否トカ今次軍縮事業ノ成否ニ重大ナル關係アルコトハ否ムヘカラサル所ナルカ故ニ我方トシテモ其成立ニハ充分同情ヲ有スル次第ナルカ兩國間ノ協定ヲ動カスヘカラサル既成事實ト爲シ他ノ海軍國ニ之ヲ強要セントスルカ如キコトアリトセンカ或ハ佛伊ノ脫退ヲ誘致スルヤモ計リ難ク軍縮事業ノ成功ヲ期スル所以ニアラサルヘシ英米兩國政府ニ於テ我國ニ對シ斯カル態度ニ出ツル意思ナキコトハ兩國當局ノ言明モアリ我方ニ於テモ充分ニ信頼シ居ル次第ナルカ佛伊兩國ニ對シテモ同様ニ深甚ノ注意ヲ拂フコトヲ要スヘク最初ヨリ兩國ノ眼中ニ置カサルカ如キ態度ヲ露骨ニ表示スルハ固ヨリ不穩當ニシテ避ケサルヘカラス

尤モ對佛伊ノ關係ニ切實ナル利害ヲ有スルハ英國ナルカ故ニ此點ニ付テハ同國政府ニ於テ充分ナル用意アルヘク我方
リ率先シテ之ヲ強調シ佛伊ト提携シテ何等畫策スル所アルカ如キ誤解ヲ招クコトアリテハ徒ラニ米國側ノ反感ヲ誘發シ
軍縮協定ヲ不可能トスル虞アルニ付一方ニ於テ佛伊トノ協調ヲ顧念スルト同時ニ他方ニ於テ本問題解決ニ對スル英米二
國ノ有力ナル地位ヲ考慮シ可然御措置アリタシ

「補助艦ノ制限ヲ比率ノ方式ニ依ル場合我方トシテハ總括的ニ七割ヲ要望スル旨ヲ述ヘ相談會ニ先タチ適當ノ機會ニ於テ豫メ「ドーズ」大使ノ了解ヲ得置ク様御盡力アリ度シ（然ルヘキ時期ニ「マクドナルド」首相ニ對シテモ同様了解ヲ得ル様御取計アリ度シ）」

四、華府條約ノ關係モアリ會議招請國（今回ノ相談會ニ非ス）ハ米國トシ會議地モ米國政府ノ決定ニ一任スルコト可然ト

思考ス（我方ニテハ「ロンドン」、「ワシントン」孰レニテモ可ナリ）

尙右訓令中ニ第四項英米兩國ト佛伊トノ連絡振ニ關シテハ帝國政府ハ八月二日更ニ松平大使宛「海軍制限問題ニ關スル「ロンドン」會談ニ付英米側ヨリ佛伊ニ對シ何等連絡ヲ執リツツアリヤ全然不明ナル處英米側ニテ佛伊ト如何ナル程度ノ連絡ヲ保チ居ルヤノ點ニ付テモ充分御留意ノ上隨時電報アリ度シ」トノ訓電ヲ發シタルカ其後同大使及出淵大使カ各方面ヨリ探知シタル所ニ依レハ佛伊共英國側ヨリ充分ナル情報ヲ得ルコト能ハサルニ付隨時米國側ヨリ之ヲ得居リタルモ我方ト英米側トノ間ノ如キ緊密ナル連絡ハ無カリシモノノ如シ

（參 考）

在英米佛伊大使館附武官及加藤聯盟海軍代表宛海軍電報

軍縮會議ニ對スル政府ノ内意ハ累次松平大使宛外務電ニヨリ其ノ大綱ヲ内示セラレタル次第ノ處尙專門ニ涉ル具體的對策ニ關シ今日迄帝國海軍トシテ研究ヲ重ネタル要項概ネ左記ノ如シ尤モ右ハ他日列國會商ノ場合必要ニ應シ逐次ニ我方ノ主張トシテ表明スヘキ基礎的内容ニシテ英米其他ノ態度ヲ明カニスル迄ハ過早ニ之ヲ開示スヘキ限リニ非サルト同時ニ會議ノ模様ニヨリテハ更ニ考慮ヲ加フルノ必要モ起リ得ヘキ筋合ノモノナリ此點篤ト御含ミノ上大使ニ對シ對外應酬上ノ胸算ヲ立テラルル資料トシテ内々豫備的ニ申進メ置カルル様致度尙英米兩國ノ關係ヲ如何ニ律スヘキカハ必然帝國ノ利否ニモ影響アル問題ナルニ付絶エス兩者交渉ノ内容ヲ探知スルニ努メラレ度依命

記

一、補助艦制限ハ艦種別制限方式ニ據ルコトトシ尙一定量ヲ限リ各艦種間ニ割當保有量ノ一部ヲ融通スルノ原則ニ同意ス

二、水上補助艦ハ

(イ) 二十噸砲搭載巡洋艦

(ロ) 一萬噸以下ノ補助航空母艦

(ハ) 輕巡洋艦、驅逐艦

ノ三種ニ類別スルヲ適當トス

但シ會議ノ大勢如何ニヨリテ (ハ) ヲ更ニ輕巡洋艦、驅逐艦ニ區分シ制限スルコトニ反對セス敷設艦ハ巡洋艦又ハ驅逐艦中ニ包含ス

三、華府條約ハ帝國ノ立場上其存續ヲ希望スル所ニシテ同條約效力ヲ減殺スルカ如キ内容ノ改訂ハ之ヲ阻止スルヲ要ス

四、華府條約中ニ規定スル主力艦及航空母艦ノ制限ヲ更ニ擴大スルハ我海軍ノ希望スル所ニシテ其ノ程度概ネ左ノ如シ

(イ) 主力艦艦型ノ縮小ハ主砲ノ制限ト關連シ二萬五千噸程度ヲ限度トス

(ロ) 主力艦及航空母艦ノ艦齡延長ニ同意ス

但シ二十六年ヲ限度トス尙主力艦代換第一艦ノ起工ハ華府條約規定通トス

(ハ) 航空母艦ノ艦型及割當噸數ヲ更ニ縮小ス

五、補助航空母艦ハ航空母艦ト同シク可成之ヲ少數ニ制限スルヲ可トス

六、二十噸砲搭載巡洋艦ハ其ノ性能ニ鑑ミ比率制限ヲ主張シ最大量保有國ニ對シ七割ヲ下ラサルヲ要ス

其他ノ補助艦ハ右ニ準ス但シ潛水艦ハ劣勢海軍唯一ノ武器トモ云フヘク自主的保有量ヲ重視スルノ要アリ帝國カ英米ニ對シ等勢力ヲ保持シ居ル現狀ニ基キ有利ナル割當量ヲ獲得スルヲ要ス

帝國ハ第一項ノ要求ニ則リ這回米國ノ新補充計畫ニ對應シ成ルヘク速ニ一萬噸巡洋艦四隻乃至五隻ノ新造

計畫ヲ國防上必要トシ既ニ次期補充計畫ニ四隻ヲ計上シ目下大藏省ト内協議中本件極秘
七、二十噸砲搭載巡洋艦艦型ハ八千噸迄低下シ差支ナシ

八、艦齡ハ壽府三國會議委員會ノ假協定ヲ適用シ巡洋艦二十年、驅逐艦十六年、潛水艦十三年トシ差支ナシ
九、制限外艦船ニ關シテハ壽府三國會議專門委員會假協定ヲ適用ス

一〇、艦齡超過艦ハ之ヲ廢棄スルヲ原則トスルモ練習又ハ警備等特殊ノ用途ニ當ツルモノ又ハ各國特殊ノ國情ヲ斟酌スル必要アル場合其他特別ノ協定ニ據ル場合一定量ヲ限り之カ保有ヲ認ム

一一、商船武裝問題ハ巡洋艦ノ砲裝、航空母艦ノ制限等ト重要ナル關係アルトコロ華府條約ノ砲裝制限ニ關スル規定ハ徹底セサル點アルヲ以テ更ニ考究スルノ要アルヘク又飛行機發着裝置ニ就テモ相當制限ヲ爲ス必要アリ

一二、英米兩國ノ關係ヲ按スルニ米國ハ曲リナリニモ英國ト「バリテ」ノ立場ヲ把持センコトニ腐心スヘク之ニ對シテ英國ハ實質的ニ對等ノ勢力ヲ以テシテハ到底満足スヘシトモ思ハレス從テ此際米國トシテハ幾分大型巡洋艦ノ優勢的割當ヲ以テ満足シ英國ニ對シ輕巡勢力ニ於テ相當大ナル割當ヲ容認スルノ襟度ヲ示ササル限リ兩者ノ協調至難ナルヘシト觀測セラル

(以下追電)

一三、補助艦艦型制限ニ關スル當方ノ内意左ノ通

(イ) 巡洋艦ハ左ノ二艦種ニ區分スルヲ適當ト認ム

イ、大型 巡洋艦

備砲八吋

一萬噸乃至八千噸

ロ、輕 巡洋艦

備砲六吋以下

排水量六千噸以下

備考 八時未滿六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル艦ハ將來建造セサルコト

(ロ) 嚮導驅逐艦艦型ニ關シ巡洋艦トノ限界ヲ定ムルヲ要スルトキハ壽府會議專門委員會ノ假協定ニ基キ千八百五十噸トスルヲ適當ト認ム但シ列國製艦ノ實狀ニ即シ之ヲ二千五百噸トスルモ差支ナシ

(ハ) 驅逐艦艦型ハ最大千四百噸トシ備砲ハ五吋以下トスルヲ適當ト認ム

(ニ) 潛水艦艦型ハ最大二千噸トシ備砲ハ五吋以下トスルヲ適當ト認ム

艦型ノ區分若ハ不建造帶ノ制定ハ之ヲ行ハサルヲ可トス

七百噸程度ノ小型潛水艦ヲ無制限トスル提案ニ對シテハ帝國ノ特殊國情ニ鑑ミ同意ス但シ潛水艦ニ對スル割當量我所需ニ滿サルノ虞アル場合ハ我方ヨリ之ヲ提唱スルコトアルヘシ

(ホ) 商船及商船ノ軍艦ニ變更セラレタルモノノ備砲ハ六吋以下ニ制限スルヲ可トス又其飛行設備ハ可成之ヲ制限スルヲ適當ト認ム

一四、英米カ相互ニ「バリテ」ヲ認ムルコトハ帝國トシテ異議ナキ所ナルモ其ノ内容ニ至リテハ我カ根本方針ノ上ヨリ且ハ總テ我國ノ特殊事情ヲ認メシムルノ礎地トモナルモノナルヲ以テ此點特ニ注意ヲ要スヘク又艦種類別ニ關シ米ハ巡洋艦大小無區別ヲ主張スルニ對シ英國ハ豫テ帝國ノ現方針略同様ノ主張ヲ有スルモノナルヲ以テ機宜英國側ト意志ノ疎通ヲ圖リ置クハ目下進行中ナル英米間ノ協定ヲ我方ニモ有利ニ進展セシムルニ效果アルヘシト思料セラル尤モ米國側カ切リニ日本トノ接觸ニ努メ我ニ對シテ主張發言ノ機會ヲ與ヘンコトニ留意シツツアル矢先萬一ニモ日英私カニ結束シテ米ニ當ルカ如キ惡感ヲ起サシムルコトアリテハ甚タ面白カラサル次第ナルニ付本件英國トノ折衝振リハ機微ノ注意ヲ要スヘシ

一五、英米交渉ノ歸趨ハ結局「バリテ」ノ内容ニ關スル取極振如何ニ懸リ補助艦問題解決ノ最重要難點ト觀測セラルル處若シ偶々兩國ノ協調克ク此ノ難關ヲ突破シ得テ英米提携ノ實ヲ舉ケタル曉其ノ餘勢ヲ以テ吾カ七割比率ノ要望ヲ輕視シ現存條約比率ヲ強制シテ一氣ニ事ヲ運ハントスルカ如キコト絶無ナラスト懸念

セラル然ルニ吾國ノ立場トシテ補助艦比率七割ノ問題ハ英米間ノ「バリテイ」ト同様ノ重要性ヲ帶フルモノナルニ付英米カ「バリテイ」問題ヲ商議ノ基礎的條件トスル態度ニ鑑ミ我方ニ於テモ相談會ニ入ルニ先立テ豫メ本件ノ了解ヲ取付ケ置クコト此際最モ必要ノ措置ナリト認ム

一六、前記二項ハ差當リ松平大使ニ於テ具體的交渉ヲ進メラルル場合御了知置テ願度要項ナリ
本電外務省ト打合濟

追テ英米兩國ノ八吋砲搭載巡洋艦ニ對スル協定隻數ハ特ニ我方態度ニ影響スル所大ナルモノアルノミナラス新補充計畫上ニモ考慮ヲ要スル點ナルニ付之ニ關スル兩國商議ノ成行ニハ特ニ留意アリ度

第七節 英米兩國ニ於ケル造艦中止聲明

第一項 「マクドナルド」首相及「フーヴァー」大統領ノ造艦中止聲明

七月十五日松平大使「ドーズ」大使ニ會見ノ際「ドーズ」大使ハ特ニ極秘トシテ「十二日「マクドナルド」首相ニ面會ノ節首相ハ近ク議會ニ於テ大型巡洋艦二隻ノ龍骨据付ヲ延期(allow down)スヘキ旨聲明スル積リナルカ米國ニ於テモ之ニ「レスポンド」サルレハ好都合ト思考スル旨語リタルニ付右本國政府ニ電報シ置キタルカ米國ニ於テモ巡洋艦三隻ノ龍骨据付ヲ延期スルコトナルヘシ日本ニ於テモ本件ハ考量ニ入レルコト望マシ」ト語リタルコトアリシカ其後七月二十二日同大使ハ「マクドナルド」首相ハ巡洋艦二隻ノ龍骨据付クノ延期ニ關シ二十四日午后議會ニ於テ聲明ヲ爲ス筈ナリ」ト述ヘ「尤モ右ハ英國側ノ自發的措置トシテ米國ト交換的約束ニ基クモノトセス米國政府側ニテハ本週金曜日前ニ自國側ノ延期ヲ發表スル事望マシキニ付其ノ旨上申セル」趣ヲ附言セリ本件建造延期ノ聲明ハ「マクドナルド」首相ニ於テ軍縮商議ニ關シ英米兩國ノ輿論ニ良好ナル刺激ヲ與ヘン事ヲ目的トシテ發意セルモノニシテ右ノ趣旨ニ對シテハ米國政府ニ於テモ素ヨリ賛成ナルヲ以テ「ドーズ」大使ノ上申ニ基キ英米相呼應シテ同趣旨ノ聲明ヲ爲スコトナリタルモノナリ

斯クテ上述ノ打合セニ基キ七月二十四日「マクドナルド」首相ハ下院ニ於テ「英國政府ハ巡洋艦二隻(「サレー」及「ノーサンバーランド」)ノ建造工事中止シ潛水母艦「メイドストーン」ヲ「キャンセル」シ潛水艦二隻ノ建造契約ヲ取消シ且其他ノ海軍建設工事を遅延スル旨ヲ聲明シ且千九百二十九年乃至三十年ノ建造計畫ニ付テハ更ニ研究ノ上ニ非サレハ何等ノ措置ヲ執ラサル旨ヲ述ヘタリ

右聲明中首相ハ先ツ「ドーズ」大使着任以來英米間ノ有ラユル相異點ニ付吟味ヲ爲シ其ノ解決ニ向テ新ニ出發セリ兩國ハ「バリテイ」ノ主義ニ同意シ且「バリテイ」ヲ離レスシテ英米兩國ノ平和的必要ヲ滿タスニ足ル或程度ノ伸縮性ヲ認ムルコトニ合致シ尙專門的事項ノ爲協定成立ノ大目的ヲ妨ケサラシムルコトヲ決セル」旨ヲ述ヘ「英國政府カ閣議ノ參考ニ資スル爲設立セル陸海空三軍及外務省代表者ヨリ成ル委員會ノ意見モ大局ノ狀勢上英國ノ造艦計畫直シテ正當ト爲セルヲ以テ充分ナル研究ノ結果造艦計畫ヲ變更スルニ決シタルカ英國海軍省ハ其ノ必要ト認ムル最少限度ノ海軍力ニ對スル專門的意見ヲ述ヘテ良ク軍縮目的ノ達成ヲ援助セリ英米間ノ相異點ヲ先ツ解決スルハ一般海軍軍縮協定ノ成立ニ必要缺クヘカラサルモノニシテ右解決次第「ワシントン」條約調印國ヲ招請シテ豫備會議ヲ開キ總括的協定成立ニ努ムヘク最終協定調印ノ場所ハ各國ノ同意ヲ得テ米國ノ選擇ニ委ネタク且之ヲ聯盟軍縮準備委員會ニ通告スルコトスヘシ斯克セハ千九百二十八年三月十五日該委員會議長ノ聯盟各國ハ相互間ノ協定成立ニ努ムヘシト「ジュネーヴ」ニ於ケル要求實現セララルル次第ニシテ吾人ハ進ンテ該委員會ト協力シテ講和條約及不戰條約ニ基ク他ノ諸種ノ軍備縮少中必須ノ難問解決ニ取懸リ得ヘク斯クテ一般の軍縮會議ノ開催モ可能トナルヘシ」ト述ヘタリ(註一)

右聲明中海軍省側ノ「最少限度ノ必要」(minimum requirements)ハ今回ノ造艦計畫縮少ニ依リ充分滿タサレ得ヘキヤトノ質問ニ對シ首相ハ英米協定成立迄ハ何等言明シ得サル旨ヲ答ヘタリ

尙右聲明ニ於テハ首相ハ米國大統領訪問ハ目下協議中ナルカ多分十月ナランカト述ヘタリ

一方米國ニ於テハ七月二十三日「フーヴァー」大統領ハ定例新聞記者會見日ニ於テ聲明書(註二)ヲ發シ四年後ノ米國豫算ハ